2013 年 度

事　業　報　告　書

学校法人　鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

学 院 本 部

学校法人鎮西学院の概要

◆建学の精神

敬天愛人を理念とし、キリスト教精神に基づく人格教育を行い、鎮西学院幼稚園・ 鎮西学院高等学校・長崎ウエスレヤン大学を運営する。

◆2013 年度　学院目標聖句

「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」

ローマの信徒への手紙 12 章 12 節

◆設置する学校等及び入学定員（2014 年 4 月 1 日現在）

〇長崎ウエスレヤン大学　現代社会学部　　定員　140名

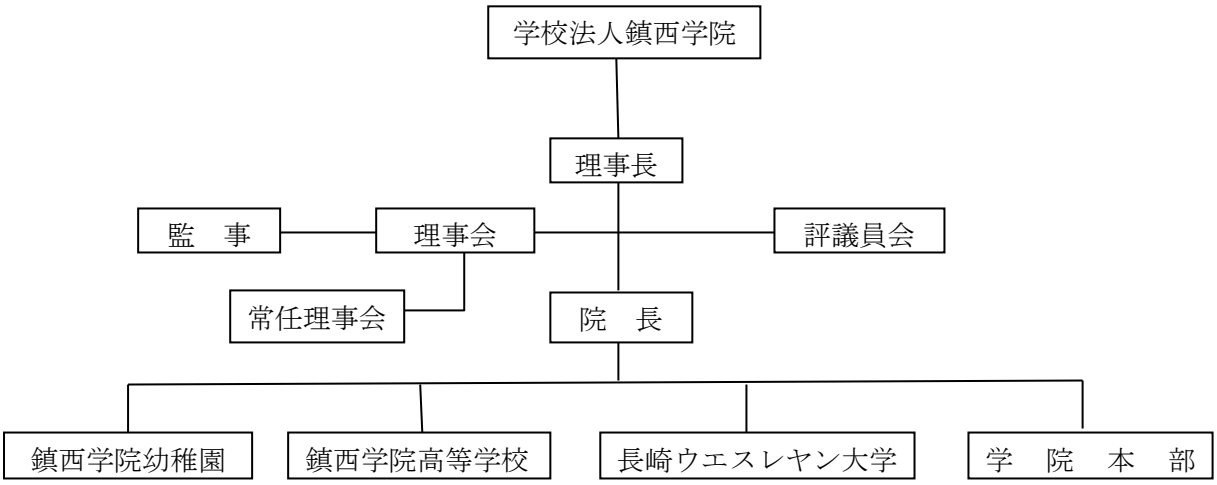
社会福祉学科　50名　　経済政策学科　50名　　外国語学科40名

〇鎮西学院高等学校(全日制課程)　　定員　300名

普通科　200名　　商業科　100名

〇鎮西学院幼稚園　収容定員　140名

◆学院組織



■ 学院役員

2014年5月1日現在

理事長	栗林英雄
院長	林田秀彦
副院長	森泰一郎
大学長	佐藤快信
高校長	川村正徳
園長	西村暢彦
法人事務局長	加藤育男
宗教主事	山城　順(大学)　・　鐵口宗久(高校)

■ 理事会

理事会開催状況

・2013年　5月28日　定期理事会

・2013年　10月29日　定期理事会

・2014年　1月 31日　定期理事会

・2014年　3月31日　定期理事会

○理事・監事

(理事定数16名、監事定数2名)　　2014年5月1日現在

番号	職名		氏名	選任区分	職業
	理事長	(常勤)	栗林英雄		理事長
1	理事	(常勤)	林田秀彦	職務上	院長
2	理事	(常勤)	森泰一郎	職務上	副院長
3	〃	(常勤)	佐藤快信	職務上	学長
4	〃	(常勤)	川村正徳	職務上	校長
5	〃	(常勤)	西村暢彦	職務上	園長
6	〃	(常勤)	加藤育男	職務上	法人事務局長
7	〃	(常勤)	栗林英雄	校友会員	
8	〃	(非常勤)	西嗣也	校友会員	
9	〃	(常勤)	山城順	教職員	宗教主事
10	〃	(常勤)	鐵口宗久	教職員	宗教主事
11	〃	(非常勤)	山口哲生	学識経験者	
12	〃	(非常勤)	杉原宏一	学識経験者	学院教育顧問
13	〃	(非常勤)	森俊介	学識経験者	厚生労働省社会保険審査会委員
14	〃	(非常勤)	木村道夫	学識経験者	
15	〃	(非常勤)	黒田隆雄	学識経験者	株式会社クロダ取締役会長
16	〃	(非常勤)	木ノ脇悦郎	教役者	福岡女学院院長・学長
1	監事	(非常勤)	井手雅康		税理士
2	〃	(非常勤)	渡瀬寛		㈱ワタセ 取締役会長

■ 評 議 員 会

評議員会開催状況

・2013 年 5 月 28 日　　定期評議員会

・2013 年 10 月 29 日　　臨時評議員会

・2014 年 3 月 31 日　　定期評議員会

○評議員

(評議員定数 33 名)　　2014 年 5 月 1 日現在

番号	職　名	氏　　名	選任区分	番号	職　名	氏　　名	選任区分
1	評議員	林　田　秀　彦	職　務　上	26	評議員		高校保護者
2	〃	森　　泰一郎	職　務　上	27	〃		幼稚園保護者
3	〃	佐　藤　快　信	職　務　上	28	〃	杉　原　宏　一	学識経験者
4	〃	川　村　正　徳	職　務　上	29	〃	森　　俊　介	学識経験者
5	〃	西　村　暢　彦	職　務　上	30	〃	山　口　哲　生	学識経験者
6	〃	亘　　明　志	職　務　上	31	〃	野　田　和　人	学識経験者
7	〃	川　﨑　　健	職　務　上	32	〃	木　村　道　夫	学識経験者
8	〃	山　城　　順	職　務　上	33	〃	黒　田　隆　雄	学識経験者
9	〃	鐵　口　宗　久	職　務　上				
10	〃	加　藤　育　男	職　務　上				
11	〃	中　野　伸　彦	大 学 教 員				
12	〃		大 学 教 員				
13	〃		大 学 教 員				
14	〃	向　　敏　彦	高 校 教 員				
15	〃	早稲田信衛	高 校 教 員				
16	〃	山 口　壮 一	高 校 教 員				
17	〃		大 学 職 員				
18	〃	駒　庭　高　明	高 校 職 員				
19	〃	栗　林　英　雄	校友会推薦				
20	〃	北　浦　定　昭	校友会推薦				
21	〃	西　　嗣　也	校友会推薦				
22	〃	内　田　博　幸	校友会推薦				
23	〃	木ノ脇悦郎	教　役　者				
24	〃		大学保護者				
25	〃		高校保護者				

長崎ウエスレヤン大学

ビジョンステートメント

REBORN NWU

2011 年 9 月 21 日
2011 年 12 月 6 日

ミッション

国際的に有為な社会人を育成する。

ビジョン

「顧客」の視点	「業務・組織運営」の視点	「人材・組織の成長」の視点	「財務」の視点
・学生の可能性を最大限に引き出し、世界に羽ばたく人材を育成する。	・家族・地域・大学が一体となって教育に取り組む新体制をつくり、さらなる地域密着を目指す。	・未来の「エンジン」たる教職員の育成及び支援体制をつくる。	・ウエスレヤン資源の利活用により新たな収益を得る。

つなげる　つながる　いっしょに歩む
成長の学びを支える長崎ウエスレヤン大学

1881 年、宣教活動のため日本に来た年若きロング夫妻は、テネシー・ウエスレヤン大学でカブリー博士の未亡人から、日本の若い人々の教育のためにと託された 2 ドル銀貨と、多くの有志者から寄せられた献金をもとに、東山手の地に鎮西学院の前身である、“カブリー・セミナリー”を設立しました。その後、1945 年の原爆投下によって大きな被害を受け、翌年には諫早の地で新しいスタートを切ったのです。

19 世紀に、アメリカの若き宣教師に託された思いが、キリストの教えとともに長崎の若いに人びとにつなげられ、21 世紀の今につながっています。そしてそこには、いつも学生達とともに、汗や涙を流してきた教職員の姿があるのです。

時代が変わった今でも、私たちの使命は変わっていません。人生の設計図が描きにくい時代だからこそ、人間関係に悩む若い人たちが多い時代だからこそ、彼らの持つ潜在的な力を信じ、それを開花させるために、私たちは、この 4 年と言う限られた時間の中で、学生たちを社会へ、そして世界へとつなげ、ともにつながり、未来に向かっていっしょに歩みたいのです。

なによりも、諫早の地の緑豊かな小さなキャンパスでの出会いを大切に、ひとりひとりの成長の学びを支える大学でありたいと願っています。

バリュー

キリスト教の信仰から生ずる価値観

“信仰を持てば人は変わる”

・オンリーワン教育

・平和をつくりだす人

・2 ドルの精神

・国際交流

1.　凡事徹底と教学マネジメント改革への取り組み

前年度に引き続いて、学部長のもと、中期経営戦略に基づく戦略テーマの実現に向けた教学マネジメントの改革を進めた。

【戦略テーマ】

1. 学生募集の新たなモデルと入学定員の確保： アジアと九州をターゲットとする新たな学生募集モデルを構築し、潜在能力のある学生を獲得することにより、入学者を安定的に確保する。
2. 体系的な教育プログラム構築： 学生支援、キャリア支援と教育課程を体系化し、学生の潜在能力を最大限に引き出す。
3. 学生の満足度を最優先とする教職員のモラール共有： 個々の学生の満足度・教育研究の質を高めるために教職員が自覚をもつ。
4. 「活動する学生」： 海外協定大学・地域・保護者とのパートナーシップを構築し、学生に豊富で多彩な学習活動の機会を提供する。

昨年度、大学運営組織の各委員会・センターの責任者が一新され、改めて教員組織が主体となって大学教育改革に取り組む体制となり、教学部門の事務局と教職協働による教学マネジメントに取り組んだ。

2.　教育プログラムの改革－体系的な教育プログラムの構築に向けて

1）　文部科学省　平成25年度私立大学改革総合支援事業に選定（選定率39％）

「大学力」の向上のため、私立大学等が組織的・体系的に取り組む大学改革の基盤充実を図るため、経常費・施設費・設備費を一体として重点的に支援されるもので、本学はタイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」（大学教育質転換型）において96点という高得点を獲得し、選定率39％の中に選ばれた。この結果、私立大学経常費補助金が12,000千円増額となった。

同事業への採択により、アクティブラーニングのための教室設備のリニューアル、図書館のラーニングコモンズ導入を果たした。

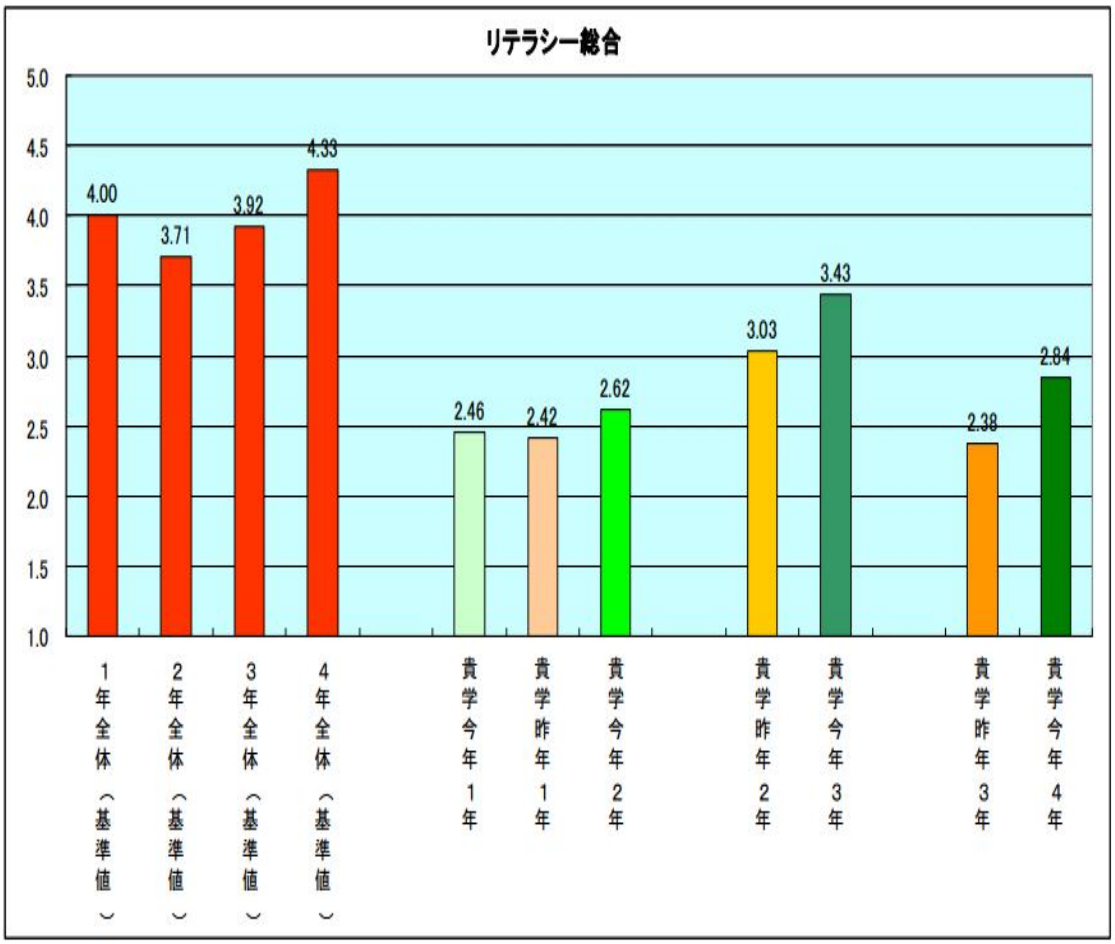
2）　PROGテストの活用

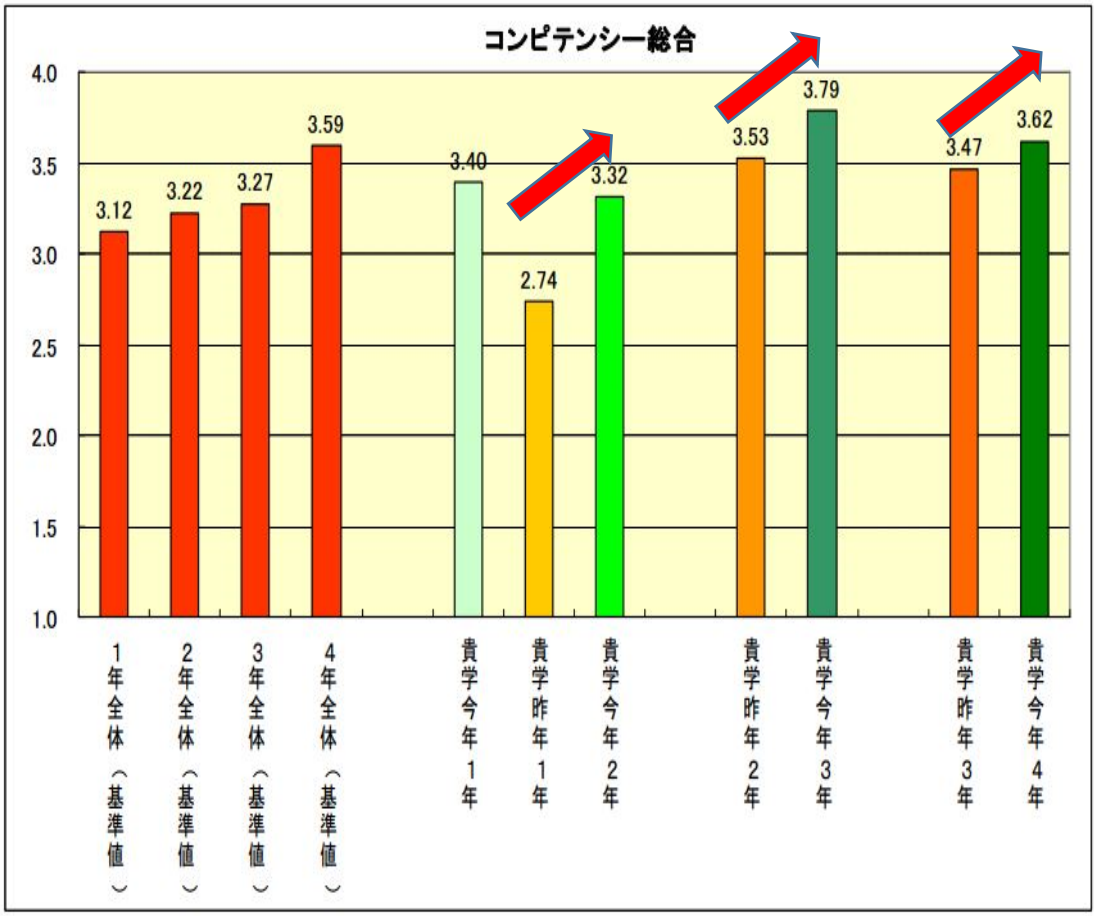
社会人基礎力を測定し、学生の就業能力を高めるとともに、カリキュラムの有効性を検証するため、2011年度より、リテラシーとコンピテンシーを測定するPROGテストを全学年で実施しており、2013年度も引き続き、学生個々のスコアに基づきゼミでの修学指導に取り組んだ。

リテラシー…知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養
コンピテンシー…経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養

【2013年度実施　テスト結果】

下記の図より分かるように、リテラシー（総合）の水準は、すべての学年に比べて伸長している。コンピテンシー実践力（総合）は、すべての学年で昨年に比べて水準が伸長している。特に、1年から2年の変化が大きい。


リテラシー総合
5.0
4.5
4.0
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
4.00
3.71
3.92
4.33
2.46
2.42
2.62
3.03
3.43
2.38
2.84
1年全体（基準値）
2年全体（基準値）
3年全体（基準値）
4年全体（基準値）
貴学今年1年
貴学昨年1年
貴学今年2年
貴学昨年2年
貴学今年3年
貴学昨年3年
貴学今年4年


コンピテンシー総合
4.0
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
3.12
3.22
3.27
3.59
3.40
2.74
3.32
3.53
3.79
3.47
3.62
1年全体（基準値）
2年全体（基準値）
3年全体（基準値）
4年全体（基準値）
貴学今年1年
貴学昨年1年
貴学今年2年
貴学昨年2年
貴学今年3年
貴学昨年3年
貴学今年4年

3） 2014年度以降のカリキュラム改革

大学教育の質的転換に引き続き取り組み、カリキュラム改革と教育方法・学習支援プログラムの充実を図る。重点施策としては、学力向上のための学習の習慣づけプログラムやコンピテンシー強化のための様々な地域活動プログラムを構築する。

4） 2013年度卒業生の進路決定状況

- 卒業生の就職内定率 81.3%（3月末現在） ※2012年度末80.5%
  就職内定者 43人
  （内訳） 一般企業 37人（教職2名含む） 福祉関係 6人
  県内 35人 県外 8人 ※就職希望者53人／卒業者68人中
- 学科別就職内定率
  社会福祉学科 75.0% 経済政策学科 77.3% 国際交流学科 100.0%
- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均
  社会福祉士 合格者数5人 合格率62.5%（27.5%） 県内1位
  精神保健福祉士 合格者数5人 合格率83.3%（58.3%） 県内1位
- 主な就職先： 長崎県社会福祉協議会、株式会社サダマツ、雲仙旅館 福田屋、株式会社東洋館、アダチモータース株式会社、ANAテレマート、JR九州
- 進学先（大学院）： 長榮大学（台湾）、神戸大学大学院、別府大学大学院

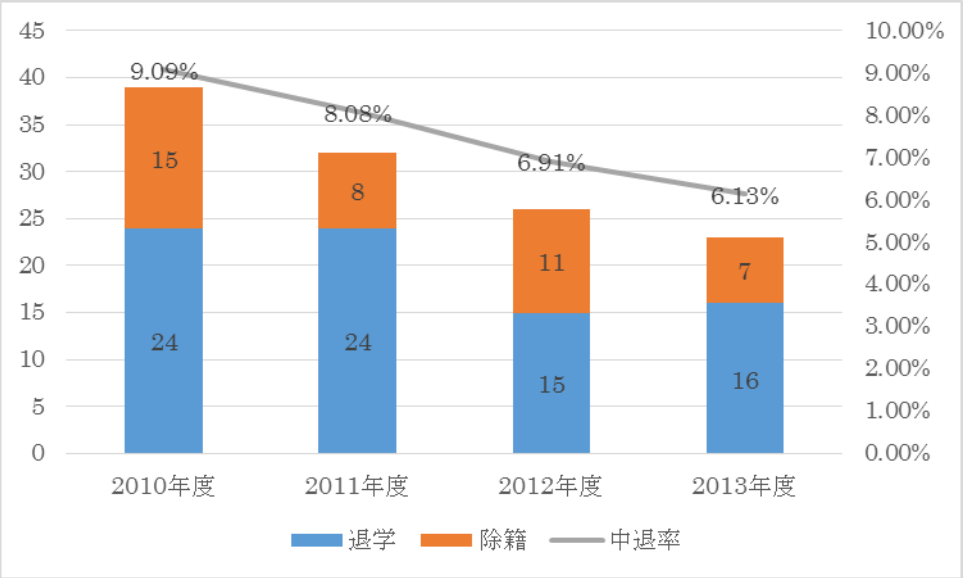
5） キャリアアップ支援の取り組み

- 情報処理関連資格取得支援
  CS検定（ワープロ部門） 3級 57人合格（68人受験）・同2級 1人合格（1人受験）
  CS検定（表計算部門） 3級 63人合格（70人受験）・同2級 受験実績なし
- 英語教育
  TOEIC（IP）・・・7月・1月 2回実施 受験者数：41人（昨年度48人）
  最高スコア：845点、 最低スコア：220点
- 漢字検定・・・6月・2月 2回実施 準2級5人合格（7人受験）
  2級1人合格（14人受験）
- 介護職員初任者研修・・・15名受講

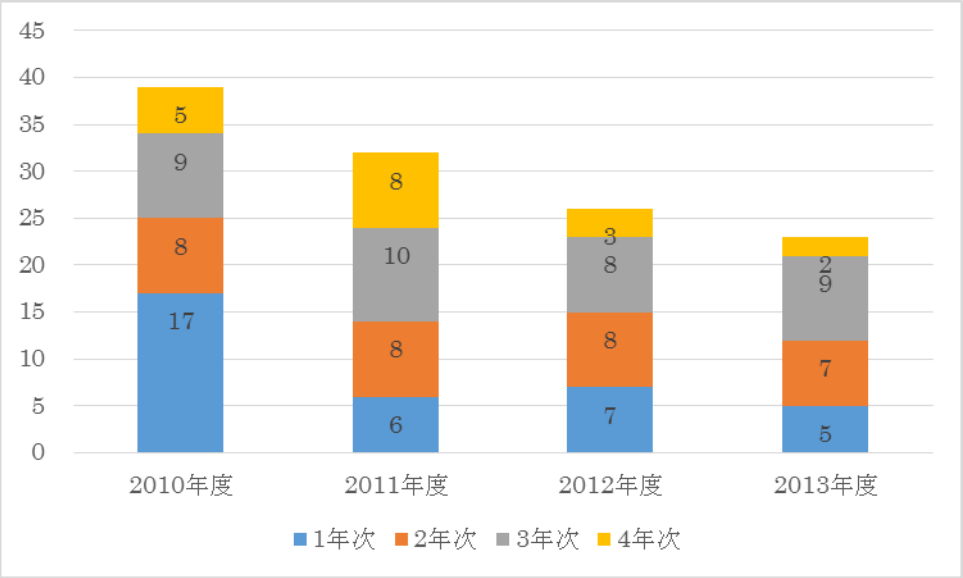
6） 中退予防

学生委員会を中心とした中退予防策により、中退者（退学・除籍者）は減少傾向。2013 年度よりキャンパス・ソーシャルワーカーを配置し、要ケア学生の情報収集・保護者を含め指導・助言体制を強化した。

【退学・除籍者数と中退率の推移】



【退学・除籍者数の学年構成】



7） 語学情報センターPCの入替

文部科学省「平成24年度私立大学等研究設備等整備費」の採択を受け（助成金4,829千円）、語学情報センターのPC62台の入替と中間モニタシステム30台を整備した。

3. 「活動する学生」

海外協定大学・地域・保護者とのパートナーシップを構築し、学生に豊富で多彩な学習活動の機会を提供することに努めた。

2013年度入学生より、特に推薦・AO入試による入学予定者を対象に、入学前教育プログラム「大学入門一歩前」を3月に実施。大学生活への適応プログラムと個別相談により、基礎学力の強化と個々の学生の特性を把握する機会を設けた。同時に、保護者相談会を開催し、要ケア学生の場合、早期のパートナーシップを図る体制を整えた。

また、キャンパス内での国際交流、交換留学や海外CSPなどのプログラムへの学生の積極的参加・参画を促し、「国際的に有為な社会人」に必要なシティズンシップを養成する機会を多く設けた。従来のタイ、フィリピン、カンボジアにおける海外CSP、スタディツアーに加え、超短期の交流プログラムとして、中国・韓国の姉妹校等の留学生と本学学生による観光・福祉分野のプログラムを実施した。2012年度より引き続いて長崎県「留学生とともに進める地域国際化事業」を通じ、島原半島の観光分野の団体との連携を強め、また、のんのこ諫早祭りへ教職員全員が参加するなど、教職員の社会貢献活動を促進させ、地域との連携を強化した。

コミュニティサービスプログラムにおいては、2012年度より開講されたオープンキャンパスや図書館活動など、事務局とのコラボレーションによるプログラムも継続して開講された。

【2013年度　コミュニティサービスプログラム開設・受講状況】

	プログラム名	サイト名（会場・関連機関等）	担当教員名	活動時期	定員	受講数
1	学童保育支援	ほくしょうクラブ、わんぱくキッズ、西諫早クラブ	開浩一	前期	8	10
2	福祉教育関連企画支援プロジェクト	長崎ウエスレヤン大学・長崎福祉教育研究会	中野伸彦	通年	8	13
3	「風の舎」ピアサポート活動	NPO 法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジまちなか相談室「風の舎」	中野伸彦	通年	8	9
4	こどもの城プレイリーダー事業	諫早市こどもの城	菅原良子	通年	5	6
5	まちづくり応援隊	「まちづくり研究室」を拠点に市内及び周辺地域	佐藤快信・藤崎亮一	通年	8	4
6	交流さんぽ会	大学周辺　大学施設内	齊藤仁志	通年	8	11
7	スタディサポート	長崎県立こども医療福祉センター（永昌東町）	菅原良子・開浩一	通年	8	11

8	子どものケア	諫早市少年センター、ｳｴｽﾚﾔﾝ･ｺﾐｭﾆﾃｨｶﾚｯｼﾞ	開浩一	前期	8	1
9	プロサッカークラブの運営にたずさわろう！	Ｖ・ファーレン長崎の試合会場設営、運営補助	佐藤茂春	通年	7	2
10	スマイルリボンながさきの活動支援	主に大学	村上清・太田勝代	通年	10	0
11	Library 学びのカフェ I、II	長崎ウエスレヤン大学附属図書館	亘　明志	通年	10	2
12	ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽｽﾀｯﾌ（学生広報スタッフ）	学内・学外・マスメディア 等	島崎英明	通年	8	3
13	離島の美しい海を守ろう	福江島半泊集落・五島列島ファンクラブ・九州商船	加藤久雄	前期（夏休）	5	4
14	カレーの街を考えよう・九州B1グランプリに参加しよう	大村あま辛黒カレーうまか隊・大村カレー学会・小浜ちゃんぽん愛好会	加藤久雄	前期（9月）	15	16
15	県央の地域国際化事業	大学・諫早市内	加藤久雄	通年	10	12
16	精神保健福祉活動支援	精神保健福祉活動支援	山口弘幸	通年	5	4

【体育系部活動の主な成績】

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部（男子）	九州大学春季バレーボールリーグ（長崎）	4部4位
	九州大学秋季バレーボールリーグ（福岡）	4部3位　3部昇格
	ウエスレヤンカップ男子バレー大会（本学）	3位
バレーボール部（女子）	九州大学春季バレーボールリーグ（佐賀）	7部4位
	九州大学秋季バレーボールリーグ（宮崎）	6部4位　5部昇格
	長崎県大学女子バレーボール大会（長崎）	4位
卓球部(女子)	全九州秋季卓球大会（福岡）	女子シングルス13位　熊川菜月
	国民体育大会九州ブロック大会 長崎県代表	熊川菜月
	長崎県卓球選手権大会･全日本大会予選会	女子ダブルス準優勝　熊川菜月 混合ダブルス3位　熊川･松木組

卓球部(女子)	南日本(中国・四国・九州)学生選手権大会(福岡)	女子シングルス出場　熊川菜月
	全日本大学総合卓球選手権大会(神戸)	女子シングルス出場　熊川菜月
	全日本卓球選手権大会(東京)	女子ダブルス出場　熊川菜月
	全九州卓球選手権大会長崎県予選大会	女子シングルスベスト4　熊川菜月 女子ダブルス準優勝　　熊川菜月
	全九州卓球選手権大会(大分)	女子シングルス・ダブルス出場　熊川菜月
卓球部(男子)	全九州春季卓球大会(熊本)	4部4位 男子シングルス　松木慎平5回戦進出
	全九州秋季卓球大会(福岡)	4部2位
	長崎県卓球選手権大会・全日本大会予選会	混合ダブルス3位　　松木・熊川組
軟式野球部	Exciting　Baseball　トーナメント　in　諫早	7位
	Exciting　Baseball　トーナメント　in　青島	10位
バトミントン部	全九州学生バドミントン大会(北九州)	男子シングルス　高比良、古場、平野、村里、伊藤、楠、松永　1回戦 女子シングルス　宋 男子ダブルス　村里・平野、古場・松永　1回戦 楠・伊藤　2回戦
	中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会(山口)	男子シングルス　高比良・松永・村里　1回戦、楠・古場　2回戦 男子ダブルス　　松永・村里、楠・伊藤、古場・高比良、増永・平野　1回戦 女子シングルス　宋、牛嶌　1回戦 女子ダブルス　　牛嶌・松田
	長崎県学生バドミントン選手権大会新人戦(長崎大)	男子シングルス・ダブルス出場
体操競技部	第61回九州学生体操競技選手権大会	個人4位、寺田琴音　　11位　寺田葉月
	第63回西日本学生体操選手権大会	個人3位　寺田琴音　5位　寺田葉月 ＊全日本学生体操選手権大会出場決定
	第67回全日本学生体操競技選手権大会	個人67位　寺田葉月

4.　学生募集の状況

入学定員の確保　　達成状況　2014年度　入学定員充足率：　75.0　%

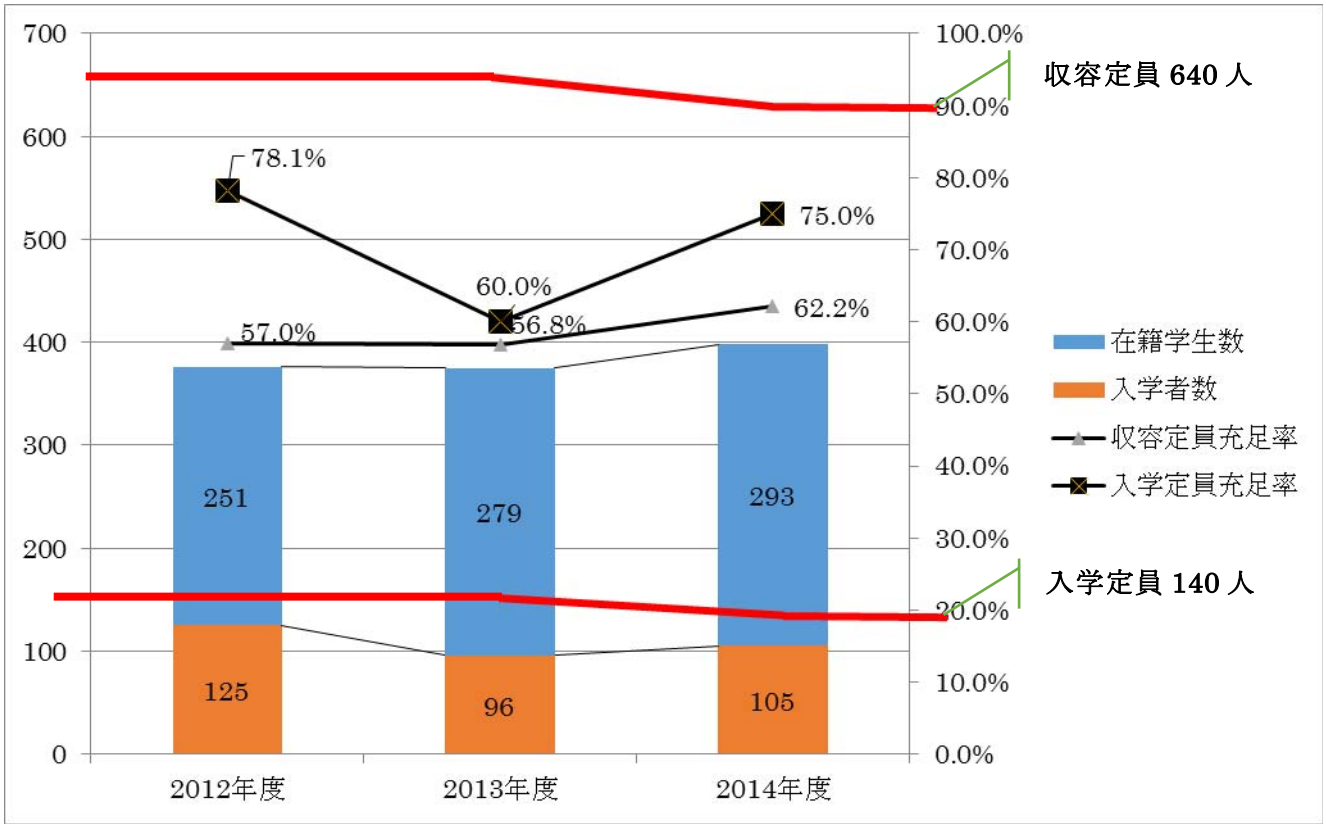
収容定員の確保　　達成状況　2014年度　収容定員充足率：　62.2　%

1）　概況

今年度の学生募集も依然として厳しい結果となった。日本人学生100人確保を目標とするが、70人前後で推移した。2012年度からの新たな特待制度の導入により、公立進学校からの進学者が定着傾向にあるが、一般・センター入試志願者が依然として不安定な状況である。

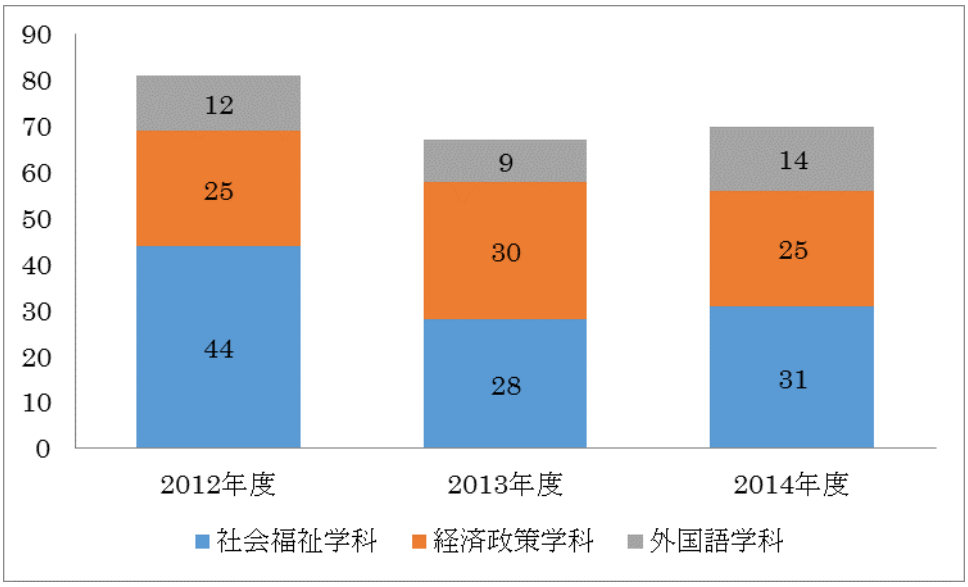
（定員充足率の推移）

	2012 年度	2013 年度	2014 年度
在籍学生数 （収容定員充足率）	376 （57.0%）	375 （56.8%）	398 （62.2%）
入学者数 （入学定員充足率）	125 （78.1%）	96 （60.0%）	105 （75.0%）



2） 学生募集の状況（学科別）

【2014年度　学生募集（1年次　日本人学生のみ）】



（1）社会福祉学科

昨年度入学者数から微増（28→31）。学院内入試・推薦入試が21名と約70%である比率から、推薦入試出願者増を最大の目標とし、高校生に対するアプローチの時期を早めることが重要であり、広報の徹底が必要である。昨年度の国家試験合格率の影響はあまり感じられない結果となったが、捉え方によっては資格取得を目指す学生層にとっての本学のポジションがどの位置にあるのか？受験者が何を求めて出願しているのかの検証が必要かと思われる。2013年度は国家資格合格率県内トップの成績を修めており、この実績をもとに次年度募集に臨むとともに、さらに福祉系の高校との連携強化を深めたい。

（2）経済政策学科

昨年度に比べ、一般入試における出願者数が減少（16→10）、全国的に経済系学部への出願者減が反映された結果となった。特に今年度は国公立大学の難易度が下がったことも一因かと思われる。引き続き女子学生の比率が低いことが懸念されるが、進学校からの入学者は継続していることもあり、一般入試に重点をおいた方策が必要である。

（3）外国語学科

2013年度はAO入試の増加により（0→6）入学者増となる。シニア・ブロンズスチューデントの入学者もあり、社会人向けの広報の重要性や潜在的に語学に対する興味が高いと思われる年齢層への積極的なアピールが効果的かと思われる。他大学との差別化を図るためにも海外プログラム（留学・コミュニティサービス・スタディツアー）など、学科の特色を打ち出し、様々な体験を通して大きく成長した学生の姿を高校生や高校教員に伝えることが直接的な募集に繋がると思われる。

（4）広報活動

- 昨年度実施した、長崎・諫早・大村地区での看板設置やオープンキャンパスの折込チラシに加え、長崎駅・本諫早駅前・島原駅・諫早東高前・島鉄列車、バス車内・西陵高校前バス停に新規看板やポスターを設置し大学の認知度アップに努めた。
- 各種イベントへの積極的な参加により、地域交流を深めるとともに、昨年度からの継続事業として長崎空港とタイアップし、8月・12月1月には1階ロビーにてパネル展示や資料配布を実施した。12月には空港イベントとしてコンサートを開催、多数の学生が出演し多くの観客を集め、今年度は空港で本学の情報を得た方がブロンズスチューデントとして入学した。FM諫早でも引き続き毎週金曜日の30分番組を担当、学科紹介や学生の様々な活動報告など地元市民に向けて情報発信を行った。
- 昨年度に引き続き『スーパー特待生』紹介のため、県内だけでなく県外進学校も視野に入れた高校訪問を強化し、高校生・高校教員・保護者へのアピールに努めた。

【オープンキャンパス集客状況推移】

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
高校生計	63	58	90
高３	44	29	56
高２	6	6	23
高１	0	1	11
運動部企画	13	22	0
社会人・その他学生	8	9	5
シニア	0	6	0
一般（保護者他）	20	30	15
合計	154	161	110

3） 留学生募集の状況

2013年度の4月受け入れより、ネパール、ベトナムより日本語教育プログラム科目等履修生をそれぞれ30人、計64人受け入れた。アジア新興国とのネットワークの拡大の契機としたい。

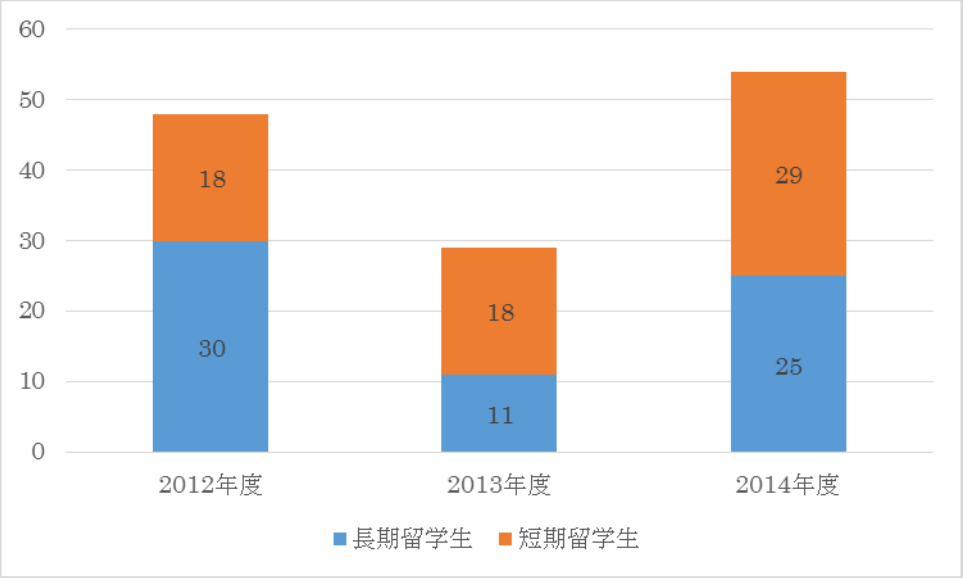
いっぽうで、優秀な留学生を獲得するためには、生活支援の基盤整備と、教育プログラムの魅力アップ、キャリア支援・就職先の確保が必須となっている。

【10月入学留学生推移】

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
1 年次計	10	19	7
（内訳）　協定による短期留学生	5	10	1
協定による長期留学生	3	0	0
その他私費留学生	2	9	6
3 年次計（協定による編入学生）	2	4	2
交換留学生	4	3	5
学部生　計	16	26	14
日本語教育プログラム科目等履修生	5	1	3
合計	21	27	17

【4月入学留学生推移】

	2012 年度	2013 年度	2014 年度
長期留学生	30	11	25
短期留学生	18	18	29
計	48	29	54



5.　財務

1）　目標の達成状況　2013年度決算（案）　帰属収支差額：　△1億1千7百万円

（参考）
学生１人当たり収入【（学納金＋補助金）÷在籍学生数】≒１２０万円
消費支出÷学生１人当たり収入≒５２１人　←　在籍学生数から見た損益分岐点

2）　黒字転換に向けて

- 5カ年の計画を実現するためには、最初の2カ年にあたる2012年度、2013年度に教育改革を進め、学生の満足度が学生募集に結び付くような大学運営の好循環の定着を実現し、入学定員の充足を達成したい。
- 私学助成のルールでは、収容定員の50%を割る場合、補助金不交付となる。不測の事態を防ぐため、2014年度学生募集より、経済政策学科の収容定員の見直しを行った。
- 2014年度予算編成は引き続き、多額の銀行借入金による経営を余儀なくされており、厳しい予算統制を行う（人件費の抑制）。
- とはいえ、支出の削減も限界にきている。特に人件費については、定期昇給ストップ、賞与なしの状態が続いており、教職員の生涯賃金はもとより、退職金や年金への影響が危ぶまれ、労働意欲の減退につながりかねない状態であり、法人として何らかの判断が必要となっている。

6.　主な教育研究活動

＜2013 年度累積 GPA 学年別平均＞

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年
平均	2013 年	2.19	2.28	2.18	2.29
	2012 年	2.41	2.18	2.1	2.39
最高	2013 年	4	3.63	3.78	3.76
	2012 年	4	3.77	3.73	3.7
最低	2013 年	0.04	0.12	0.13	0.83
	2012 年	0.19	0.13	0.51	0.75

＜学長賞・成績優秀賞＞

学長賞・・・卒業時に 4 年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者　　4 年生　1 人

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者

1 年	2 年	3 年	4 年
2 人	3 人	4 人	3 人

＜各学科の取り組み＞

社会福祉学科

- 第 16 回高校生福祉フォーラム・・・11 月 17 日開催。参加状況；175 人（うち高校生 77 人）。高校生福祉大賞コンテストを開催。高校生 10 団体によるプレゼンテーションコンテストを開催。第 2 部は、掛屋剛志さんによるミニコンサート、グループ対抗会場トーク＆クイズバトルを開催。音楽やクイズを通して福祉サービスのあり方を楽しく学んだ。
- 第 10 回九州地区福祉系高校教員研究セミナー・・・11 月 18 日開催。参加状況；58 名 （うち高校教員 19 人）。
- このほか、卒業生を中心とした社会福祉学会の開催、福祉系高校への教員派遣などに取り組んだ。

経済政策学科

- 学生の企画運営による宿泊研修を開催。多学年の縦のつながりはもちろん、学生のファシリテーション能力の向上が見られた。
- 野村証券との連携により、授業へのゲスト講師を招へいした。今後の産学連携による冠講座へ向け継続して取り組む予定である。
- 完成年度を迎え、文部科学省の履行状況実地調査を受けた。学生の満足度は高いとの評価を得たが、学生募集の現状に厳しい評価を得た。

外国語学科

異文化理解プログラムを留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。

- May Fiesta・・・5 月 18 日開催。各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ 60 人による運営により、来場者数約 300 人を動員。
- International Café・・・06 年度より毎月 1 回開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。
- 留学生の祭典・・・7 月開催。各国の留学生による歌や踊り、民族楽器の演奏といった伝統文化を披露し、一般市民も多数参加した。
- International Talk show, Speech Contest・・・11～12 月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。
- English Boot Camp・・・8 月と 2 月に実施。Reading ,Speaking ,そして語彙を含んだ集中英語プログラム。

＜障害学生の在学状況＞

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0 人	4 人	0 人	4 人

＜地域連携＞

NICE キャンパス　コーディネイト科目「大学の地域での役割・連携」全 15 回
実施時期;2013 年 10 月 2 日～2014 年 1 月 29 日　毎週水曜　18:00～19:30 開催
一般市民受講者数;のべ 186 人

科目等履修生の受入状況
前期・後期　計 24 名　（スピーキング、英語コミュニケーション、中国語発音、死生学等）
※日本語教育プログラム受講生を除く。

受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	―
「中核的専門人材育成のためのグローバルコンソーシアム」 企業ニーズ調査請負業務	九州大学	1,490 千円
計		―

＜高大連携関連事業報告＞

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。特に鎮西学院高等学校との高大連携については、継続的な教育プログラムを行った。

高等学校スポーツ部活動の応援

従来の企画「ウエスレヤンカップ」において、テニス部とバレー部を対象に実施。

＜学術研究＞

個人研究費の配分状況

2013 年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様 150 千円の配分となった。

共同研究費の配分状況

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
裵　瑢俊	教授	初年次教育を中心とした本学教育プログラムの体系化
占部尊士	准教授	福祉専門職養成におけるハイブリットテュートリアル適用に関する研究
村岡則子	准教授	「食文化の継承を通した高齢者の生きがい形成（QOL の向上）～高齢者と若者を含めた多世代交流の推進活動を通して～」
加藤久雄	准教授	五島列島における潜伏キリシタン墓の研究

胡振剛	教授	日本語はなぜ漢字廃止できないか
佐藤茂春	准教授	スマートフォンを利用した教室内実験ツールの構築と経済学教育における効果の検証

科学研究費補助金の獲得状況

2013 年度の科学研究費補助金は、新規採択・研究分担金はなし、継続 3 件であった。

また、2013年度の科研費申請件数は5件であった。

科研費総額（2013年度）

直接経費	間接経費	計
3,400千円	1,020千円	4,420千円

鎮西学院高等学校

２０１３年度　鎮西学院高等学校事業報告

Ⅰ　教育の充実

（１）建学の精神の推進とキリスト教教育の実践

①　２０１３年度目標聖句「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」が与えられ、２０１３年度が神によって導かれ、守られて終えることができたことに感謝したい。

②　全校礼拝やクラス礼拝を通じて、生徒も教職員も神に生かされている存在であることを学ぶことができた。

③　物故職員記念礼拝、生徒修養会、創立記念礼拝、学校クリスマス等の宗教行事を通して、鎮西学院の建学の精神である「神を敬い、人を愛する」ことを学ぶことができた。

④　８月９日の平和祈念礼拝や校友会員による被爆体験継承を行い、多くの犠牲者を出した被爆当事校として積極的に平和教育に取り組む活動を行った。

⑤　オープンキャンパスやＰＴＡ総会時に簡単なチャペルを実施することにより、地域住民や中学生に本学院の建学の精神に触れる機会をもつことができた。

（２）学習指導・進路指導の充実

①　２０１３年度の進路決定状況は、筑波大学、横浜国立大学、長崎大学、山口大学、慶応大学、立命館大学等国公立大学合格者は３０名、私立大学は合格者１３４名という結果であった。就職関係では海上保安学校をはじめ２名の公務員、１０名の自衛官合格を出すことができ、また就職内定率１００％（就職希望者４１名全員が２月上旬に合格内定が確定）を達成することができた。生徒１人ひとりの進路実現に向けて教職員が一丸となって取り組んだ結果である。

②　２０１３年度より基礎学力向上を図ることを目的に全校で学び直しの学習システム「マナトレ」を導入した。このことにより全校生の学力や家庭学習量を把握することができ、生徒に対する個人指導の徹底を図ることができた。今後も全校生の学力向上と、１００％の進路実現を目指して努力したい。

③　商業科の生徒を中心に、情報処理検定等の資格取得に努め、パソコン検定２級及び準２級合格者がそれぞれ１名、３級合格者８０名であった。今後はさらなる魅力ある商業科作りに努めていきたい。

④　長崎ウエスレヤン大学への内部合格者は３０名であった。高大連携のさらなる充実を図ることにより、長崎ウエスレヤン大学に関心を持たせるとともに生徒の長崎ウエスレヤン大学への進学意欲を高めていきたい。

（３）クラブ活動の充実

①　運動部

２０１３年度高総体では、卓球男子とサッカー女子が優勝を果たし優勝旗を２本獲得することができた。また、サッカー女子が全国高総体でベスト８に入賞、卓球男子が全国卓球選抜大会で全国第５位という輝かしい成績を残すことができた。

また、陸上部の向井晃平君が全国都道府県対抗駅伝大会でＭＶＰを獲得した。

② 文化部

吹奏楽部が県吹奏楽コンクール、九州吹奏楽コンクールでそれぞれ金賞を獲得した。また、全国総文祭で松尾由貴さんが写真部門の最高賞である文部科学大臣賞に輝いた。

（４）生徒指導の充実

① 全教職員の共通理解・共通実践を基本とした指導体制の確立を図ることができた。

② 元気のよい挨拶の励行に努めた。

③ 基本的生活習慣を身につけさせることに努めた。(清掃の徹底、遅刻、欠席の減少)マナー教育に力を入れ、特に「着こなし指導」の徹底を図ってきた。今後も服装の乱れを根絶するため一層の努力をしていきたい。

④ 校内に不審者が侵入するという事件が数件発生したことから、校舎昇降口付近や寮玄関付近に監視カメラを設置した。

⑤ 携帯電話の所持については、原則として禁止とし、携帯電話によるいじめ防止に努めてきた。次年度は高校生の約９割が所持しているという現実を考慮し、指導のあり方を検討する。

⑥ いじめや体罰についての研修会を行い、安心・安全な学校作りに努めてきた。今後も他校の取り組みを参考にするなど、一層充実した研修を行っていきたい。

（５）学校力の強化

① 目標設定・自己申告制度の定着化を図ることにより、教職員の意識改革につなげることができた。また、教職員からの学校活性化への建設的な提言を受け、現場の改善につなげることができた。

② 予備校の活用により、教員の教科指導力を高めるよう努めた。

③ パソコンを活用した朝会や職員会議を行うことにより、時間の短縮や事務処理の効率化、また紙資源の節約に努めることができた。

④ スタディサポートのデーターを基に、業者による校内研修を実施した。これにより生徒の実力確認と今後の対応策を図ることができた。計画していた先進校視察を２０１３年度は実施することができなかった。

（６）国際交流の推進

① 姉妹校であるアップルビーカレッジに交換留学生として女子生徒１名を送り出した。ロータリークラブとの連携によりアメリカとカナダからそれぞれ各１名の交換留学生を受け入れた。

② 修学旅行（シンガポール、マレーシア）により、異文化を体験して、国際理解を深める機会を持つことができた。

（７）ＰＴＡとの連携

① 体育祭、文化祭、市民クリスマス等の学校行事や私学振興大会にも積極的に参加していただくようはたらきかけた。今後も常に開かれた学校として、保護者が気軽に授業見学、相談ができる体制を整えていきたい。

② 県下７地区において地区ＰＴＡを実施した。保護者会で出された意見や要望には誠意をもって応え、出来る限り学校運営に反映させるように努めた。

Ⅱ 生徒募集対策

（１）昨年、一昨年と定員３００名を上回る生徒数を確保し、今年３年連続３００名を目標に募集活動を展開した。諫早高校附属中学校の高校入学年度とともに実業系高校の一層の人気高といったこれまでにない進学環境となった。結果的に３３３名の入学生を迎え、３年連続３００名という目標を達成できた。本校を専願希望する部活動生や学力奨学生はもとより、公立高校を併願とする生徒の取り込みが奏功したと言える。これまで築き上げた「丁寧できめ細かな指導」と「確かな進路実績」が評価された結果であると言える。今後も中学生や在籍している生徒に対して希望ある学校として地域社会に認められるよう学校運営を進めてゆきたい。

（２）重点施策

・中学校訪問

県内７地区を定期訪問し中学校との連携を密にして信頼関係を築いた。離島３地区（対馬、五島、新上五島）を訪問し本校の教育活動と募集について周知を図った。対馬地区においては教師対象入試説明会、中学生および保護者対象の入試個別相談会を開催し受験につなげた。さらに年２回地区保護者会を開催し保護者との信頼関係を築いた。また、佐世保、松浦地区へも訪問し在籍生徒の現況等の報告とともに本校の教育活動を伝えた。遠隔地の募集活動も丁寧に行い情報を発信することで将来における募集につながると確信する。

・オープンキャンパス、入試個別相談会

中学生にとって高校を訪れる数少ない機会であり、その時の印象が今後の学校選びに大きく影響を与えることを考えるとオープンキャンパスは絶好の機会であると言える。参加者数は昨年を３３名上回り、特に第２回においては１５４名の増加で部活動体験に人気が集まった。今後新たな魅力ある内容のオープンキャンパスの開催に努めたい。

入試個別相談会を今年度も土曜日に開催した。中学生とその保護者と対面し時間をかけて細かに話すことができるため参加者の入学割合は高い。延べ６２組が相談会に訪れた。

・メディア等の有効活用

メディアを利用した情報提供はオープンキャンパスや個別相談会など有効な広報手段となった。今年度は民法２局（ＫＴＮ、ＮＢＣ）、ＦＭおおむら、諫早ケーブルＴＶ、大村ケーブルＴＶを活用した。投下時期や内容をより精査し今後もメディアの有効活用を実施したいと考える。

Ⅲ　施設・設備整備の充実

①　１００周年記念館３階メディア室の改修工事

②　特別校舎（木造中校舎）屋根補修とトイレの改修工事

③　陸上グランド排水工事

④　野球場と陸上グランドのナイター設備

⑤　来客用玄関改修工事

⑥　トイレ（男女生徒用、教職員用）

⑦　優勝旗等展示戸棚の設置

⑧　その他

鎮西学院幼稚園

２０１３年度　幼稚園：事業報告

鎮西学院幼稚園
園長　西村　暢彦

“子どもたちの瞳の輝きがここから生まれます”

１、教育の重点目標　　“保育の原点がここにはあります”

(1) 保育のこころ・保育目標

①幼児教育は、人生の土台（人格形成 ）を育む、大切な基礎づくりと心に刻んで保育に努めた。

②キリスト教の精神に基づき、キリスト教保育を柱として、人を思いやり愛のことばで育むとともに、毎朝子ども達と教師が祈りをもって一日をスタートさせることができた。

・宗教行事の礼拝や親子礼拝も、山城大学宗教主事、鉄口高等学校宗教主任、各牧師先生方のご協力を得て実施できた事は感謝です。また、園ホールでの合同礼拝は園の教師で実施した。

③学院を包む広大で緑豊かな自然の中で感性や創造性を育て、『幼児は遊びで育つ』という理念の下で、計画的、創造的にのびのびと育てている。それは、子どもは遊びの中で社会性や協調性が培われ、他者への思いやりの気持ちも育ってくるからであり、これからやってくる子どもたちの人生の中で必ずや『生きる力』の礎になるからである。

(2) キリスト教保育の充実

『保育のこころ』や『保育目標』に基づく保育活動、ピースチャペルでの「親子礼拝」を始め、「保育室での礼拝」で毎日祈りをもってスタートさせることができた。

・また、「クリスマス礼拝・祝会」等を通して、当園の特徴を保護者に理解してもらうように充実を図った。クリスマス礼拝・祝会は園児数増加に伴い、大学のご協力を得て西山ホールで開催してきた。４年目になる。保護者からは好評で、継続したい。

(3) 学校評価の推進

・教職員に自己評価を実施し、教育目標の再確認や実践改善を推進している。

・毎月の保護者役員会で、行事等についての具体的な評価をいただき、園運営に反映させ、「開かれた園づくり」「安心と信頼の構築」に向けて推進している。

(4) 園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行し充実を図る

月々のカリキュラム（教育課程）や園・クラスの様子を、「園だより」や「学級だより」、写真を多数載せたフォトレターにより知らせ、保護者との信頼関係を構築している。

(5) 教職員のこころ（組織の基本）

※　一日の始まりはお祈りから

１．園長を中心に組織がまとまる心をもって行動できた。
２．園の方針を理解し、その方針に添って行動できた。
３．教職員が職場に誇りを持っている。
４．笑顔で保護者とのコミュニケーションがとれた。
５．教職員を引っ張れるよい主任がいる。
６．教職員が笑顔に満ち溢れている。
７．挨拶がスムーズにできた。
８．掃除が行き届いた。

「教職員間の共通理解・共通実践」が実行されている。

“キリスト教保育の場にいる保育者は、教会の礼拝を肌で感じ、大切にする心が求められている”

２、努力事項（園児募集対策）

『　園児数の推移　』

２００１年度（平成１３年度）・・・・８３名
２００２年度（平成１４年度）・・・・９３名
２００３年度（平成１５年度）・・・・９２名
２００４年度（平成１６年度）・・・・９４名
２００５年度（平成１７年度）・・・・８０名
２００６年度（平成１８年度）・・・・７７名
２００７年度（平成１９年度）・・・・６４名
２００８年度（平成２０年度）・・・・７２名
２００９年度（平成２１年度）・・・１０６名
２０１０年度（平成２２年度）・・・１０４名
２０１１年度（平成２３年度）・・・１０９名
２０１２年度（平成２４年度）・・・１０６名
２０１３年度（平成２５年度）・・・・９５名　（当初９０名でスタート）
２０１４年度（平成２６年度）・・・・９３名　(2014.5.1 現在)

“魅力あふれる幼稚園づくり”を目指して

(1) 広大で緑豊かな学院全体の活用で「心と体の健康」を推進

※これぞ鎮西学院幼稚園にしか出来ない保育、行事であり、最大のアピールポイントである。

・園内はもちろん、高等学校のグラウンド、大学のキャンパス、自然に恵まれた広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」を子どもたちに育てている。

・「学院内遠足」を各学期に実施している。学院内を散策し、野球グランド外野芝生で活動する。また、「どんぐり拾い」・「探検ごっこ」・「散歩」も行った。

・高校グランドでの「運動会」、大学西山ホールでの「クリスマス礼拝・祝会」、寮前広場でのキャンプファイヤー（年長お泊まり保育、卒園生夏の集い、親子夏の集い）を実施。

・2013 年度、高校敷地に**「芋畑」を開墾**し、親子畝づくりと苗植え、芋ほりを実施。

(2) 遠足の充実

・4 月の歓迎親子遠足は、鎮西学院高校の大型バスを利用し現地まで行く。３ヶ所を１年置きに実施。（干拓の里・白木峰・大村琴平公園）

・３月のお別れ遠足は、年長組を園～県立総合運動公園（3 ㎞）まで徒歩で挑戦させている。年中組は市営野球場～（1.5 ㎞）に挑戦した。年少組は、バスで現地まで行き運動公園内を歩いた。

(3) 外注弁当に加え「パン給食」の導入

・子育て支援の一環として、２０１０年度より週１回月曜日に、全員外注弁当（給食）方式を実施。

・2014 度より、新たに週１回「パン給食」を希望制で導入するため、2013 年度３学期から、年長組で試行した。

・かねてより給食の日数を増やしてほしいという要望があったものに、こたえる形で開始。

(4) 未就園児と親子のつどいの推進（オープンキャンパスの一環）

・保育主任主導で

月３回「おひさまくらぶ」（２歳以上対象）を実施。

学期毎に１～２回「グリーンクラブ」（１歳以上対象）を実施。

子育て支援の一環として楽しいプログラムを充実させ、広報にも結びつけている。

(5) 行事の充実と保護者会（ひかりの会）との連携推進

・キリスト教行事は元より、他の行事もその充実に努めている。

・保護者の参加型行事を計画し、幼稚園への理解・協力を深めてもらう機会とし、幼稚園の活性化にもつなげている。

・園運営について、毎月保護者会役員会で説明責任を果たすとともに、行事等について率直な意見、要望を聞くことで、その連携に努めている。

(6) 預かり保育の充実

・子育て支援の一環としての、仕事をしておられるお母さん方への支援として実施。活用する園児増により保育者２人体制で充実を図り定着している。

・夏期休暇中に長崎ペンギン水族館及び野岳水辺の森公園（大村市）への遠足を実施。子どもたちや保護者からは好評で毎年恒例としたい。

(7) ホームページの完全リニューアルによる情報提供、宣伝活動の充実

・２０１４年２月にホームページをリニューアルした。

・本園の特色を具体的にアピールするために、日常の保育活動の様子を発信する。

・このことにより、在園児保護者への情報提供や説明責任を果たすとともに、インターネットによって幼稚園を検索する未就園児保護者への、貴重な広報とする。

・下記「園長室だより・子育て談話室」も、ホームページに掲載する。

(8) 園長室だより「子育て談話室」の発行

・従来の園だより、学級だよりに加えて、保護者と園がともに子育てについて語り合える機会づくりと、子育てのヒントを提供するため、2013 年 12 月より発行。

・月２回程度、印刷して全世帯に配布するとともに、ホームページにも「園長の子育て談話室」として掲載。

・内容例：　園での子どもの様子から　　幼児期の遊びの持つ意味

子どもの成長段階　　ほめ方叱り方　　身近なできごとやニュースに関して

ことばや文字について　お母さんのためのかな文字教室　・・・

(9) ミニ講演会の取り組み

・お母さん方に、子育てに役立つ講演を提供し、子育てを考える機会とするとともに、子育て仲間として共に語り合える関係をつくる。

※園児募集対策の重点施策は基本的に『保育の充実』にある。保育者の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開され、それにより保護者からの口コミが広報に結びつく。

そこで、2014 年度からは、次のように教職員の研修の充実に取り組む。

○教職員研修の充実

・保育の質の向上のため出張研修のみならず、2014 年度より研修テーマを設定し「園内研修」の充実を図る。

・また、並行して「現職教育」の時間を設定し、教育技術や知識の充実を図る。

３、施設、設備及び環境整備

（1）園児送迎用ミニバス（ワゴン車）

２００８年度よりタクシー会社と業務委託を継続してきたが、経費面での事情で２０１１年度契約打ち切りとした。２０１２年度からは、園で中古ワゴン車を購入し運行を継続している。

（2）廊下に雨が降りこむための防御策試行中

・雨風がひどい日は廊下に雨が降り込み、子どもたちが朝の登園時や帰りの靴の履き替え時に濡れてしまう。窓やビニールカーテン方式を考えても、利便性に問題があり、景観が損なわれる。

・2013 年度中に考えたいくつかの方策を、2014 年度試してみる。

（3）園庭整備の推進

①砂場及び泥遊び場の整備充実を図ってきた。

幼児教育の中で泥遊び・砂遊びほど重要なものはないので、梅雨時はテントを張るなど、年間を通して利用できるようにしている。

②遊具の美観と腐食防止のため、園庭内遊具のペンキ塗りをこまめに実施している。

③園庭美化のため芝を刈り美しい園庭を保持する。

・緑の芝生の上で子どもたちを素足で遊ばせたい。そのため、芝生の傷んでいるところを補修し、養生している。

・花いっぱい運動を展開し、一年中花に囲まれた子どもたちの笑顔あふれる幼稚園としている。

（4）園舎老朽化への対応

築４５年の建物。建替えも視野に入れた大きな検討課題である。

４、危機管理

“幼稚園は子どもたちの生命・身体を守る使命がある”

① 夜間の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。

② 幼稚園の遊具による事故は絶対に防ぐため、また敷地内の安全を確保するため、年５回、全職員で安全点検を実施している。

③ 園児の避難訓練は年間を通して実施している。（学期２回、年６回実施。不審者、火災、地震）各避難マニュアルも整備している。特に不審者対策では正門前の運行部に応援要請している。

④ 職員室には『さす股』を常設している。

⑤ 不審者対策の道具『ネットランチャー』も常設している。（ネットランチャーとは、鉄砲方式で一瞬にネットが３～４ｍ飛び出し、身体に絡みつく画期的な防犯対策機器。）

⑥ 不審者対策の道具『ガス噴射器（消火器の小型）』も常設し、不審者を撃退する。